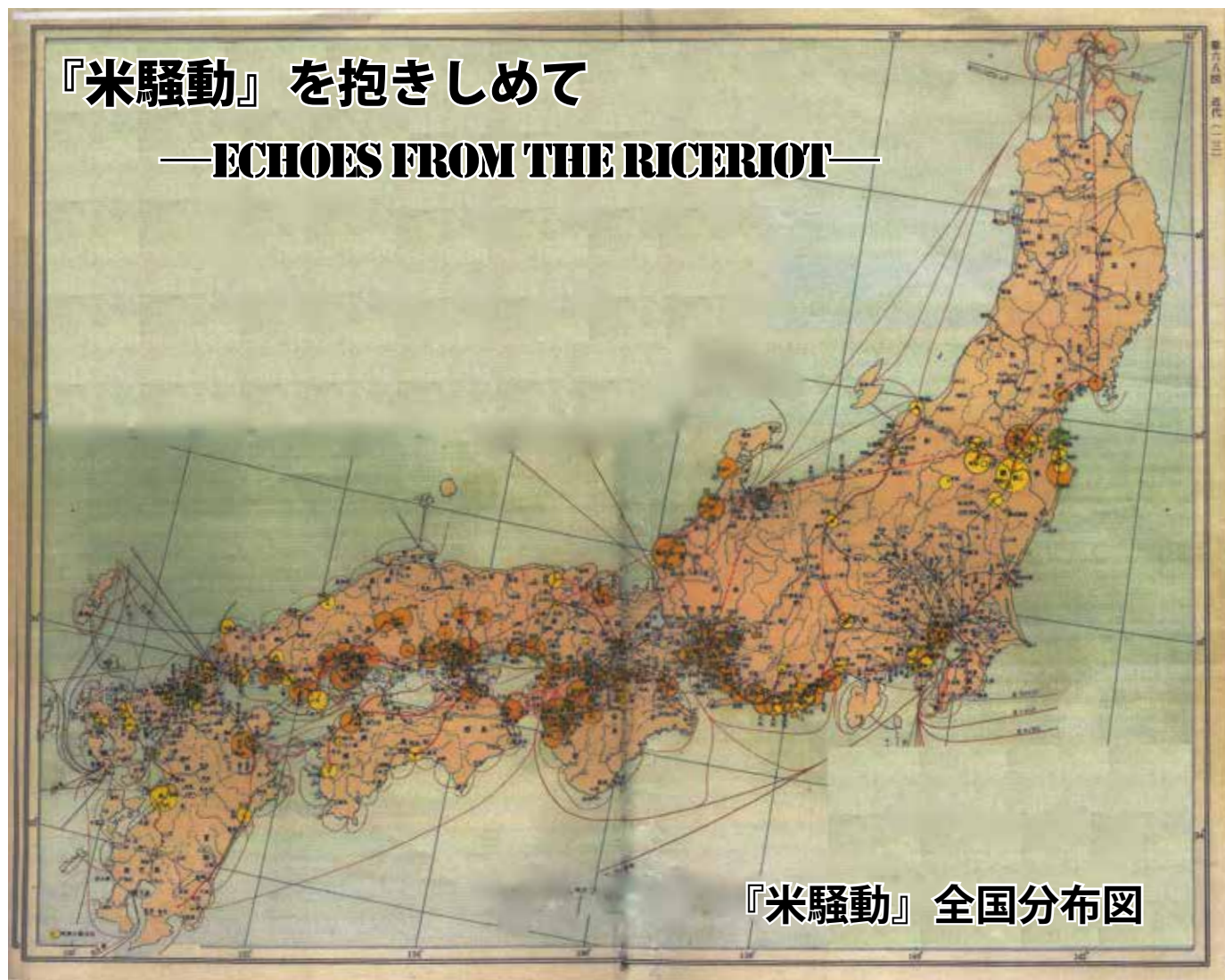


『米騒動』 100年プロジェクト



忘却のかなたにおいやられたかにみえる記憶は、持続的に過去を想起し続ける想像力によって、現在の中に追体験される。

そして、過去は過去ではなくなり流動を始め、現在に向かって覚醒する。

この時、無意識のままに流されていた現在も流動を開始し、今をつくる無意識は打破される。

(小野沢稔彦「境界の映画／映画の境界」から)

SCHEDULE

SCENE 1 4・28(土) 13:00 サンフォルテ 305 号室

プロローグ：「耳を澄まそう！『米騒動』のエコーが、
『じゃなかしゃばが欲しかよ』の音が・・・聞こえる」
COMMENT 栗原 康（アナキズム研究）

SCENE 2 5・12(土) 13:00 サンフォルテ 305 号室

「THE SHOUTS」——水橋—滑川のおっかあたちの叫び

SCENE 3 6・9(土) 13:00 サンフォルテ 305 号室

『米騒動』から 100 年—民衆の経験史をたどる
——〈生のサンジカ〉の希求の系譜
COMMENT 原口 剛（神戸大）

SCENE 4 7・14(土) 13:00 サンフォルテ 305 号室

「『米騒動』と朝鮮」—異聞「雨の降る品川駅」
COMMENT 中山 幸雄（広島アビエルト）

SCENE 5 8・18(土) 13:00 サンフォルテ 305 号室

PART 1 ドキュメンタリー：熊谷博子「三池を抱きしめる女たち」
PART 2 「修羅の女の長い列」

SCENE 6 9・15(土) 13:00 サンフォルテ 304 号室

「富山の女が拓いたもの
—『米騒動』／『富山型デイ』—その〈先〉へ」
COMMENT 水野 博達（大阪市大）
惣万佳代子（富山「このゆびと一まれ」）
阪井由佳子（富山「にぎやか」）

SCENE 7 10・13(土) 13:00 サンフォルテ 305 号室

PART 1 群読：『米騒動』から 100 年の〈後〉に
PART 2 問題提起：菅孝行（劇作家・評論家）＋討論
「私・たちは〈どこ〉へいくのか」

『米騒動』 100年プロジェクト：

SCENE 2 『米騒動』を抱きしめて —ECHOES FROM THE RICERIOT—

- ・富山湾東側の街々、波打ち際の石を掘り返し、『米騒動』の女たちの叫び声を聴く。
- ・その「叫び」は、この100年の通奏低音。列島にこだまし、今日まで続く。



- ・『米騒動』からのエコーだ。
- ・さあ、女たちの「叫び声」に耳を澄ませ！



SCENE 3

『米騒動』から100年。エコーしたのは、闘争のスタイルと〈じゃなかしゃば〉を求める世界像とが不可分な民衆運動のあり方。女たちの「叫び声」の中に、水平で開放的な、人の繋がりが＝運動のスタイルと、求める世界像が、分かち難く重なり、響く。

- ・その〈じゃなかしゃば＝今のようにではない世の中〉への希求、共に生きることが可能な〈生のサンジカ〉の希求は、『米騒動』から100年の間に民衆の経験として、どのように蓄積されてきたか？
- ・〈じゃなかしゃば〉を求め続けてきた人々—食を求め、土を、島を守り、ヤマ（炭鉱）に生き、寄せ場で闘い、路上の果てを生き、アンダークラスの底を這い、放射能にまみれながら生きる人々の軌跡を、私・たちはどのように受け継ぐか。

SCENE 4

叫び声が聞こえる！

〈生のサンジカ〉の希求の系譜には、日本の民衆と「渡日」朝鮮民衆の共同の闘いがあった。（昭和）「天皇代替わり」をはさむ闘いがあった。

中野重治「雨の降る品川駅」の曲折。

日朝共同闘争の高揚と挫折。しかしその闘争の場面にこそ、〈じゃなかしゃば〉を求めた〈生のサンジカ〉の希求があった。しかし今日、それは歴史の表舞台に描かれることはない。

SCENE 5

あなたには見えるか？ 100年の民衆の経験史は、日本の近代化の歴史の内にある。近代化に伴い穿たれたこの列島を縦横に走る亀裂。その亀裂の底で呻き、苦闘している者の傍らに立ち続ける女たちが、あなたには見えるか？

例えば、「三池を抱きしめる女たち」。近代化の暴力と苦闘してきた者の傍らに、「修羅の女の長い列」がある。「女たち」の解放なくして、〈じゃなかしゃば〉はありうるか。

SCENE 6

- ・「米騒動」の初期を担った富山の女たち、100年後、「共生型ケア」の全国化の初期を担った富山の女たち。その営みを手足とする「地域包括ケアシステム」の侵攻の中で、「富山型」はどこへ行くのか？ 迫り来る2025年問題を契機に、「売る介護—買える者／買えない者の分断」を超えて、高齢者は「ケア」の場を〈生のサンジカ〉へと反転できるか。

累代の「叫び」の中に聴く、水平で開放的な人の繋がりと、共に生きることが可能な世界への希求。100年後の次の一步を、私たちはどう踏み出すのか？

多様な領域で〈生のサンジカ〉——例えば「高齢者生存組合」というような——を創りだし、それらが結び合っ、一つの〈陣地〉とでもいふべきものをこの列島の各地に構築していくこと、言うならば〈生のサンジカリズム〉の陣型の創出、それが私・たちの踏み出すべき第一歩だ。

1918年 列島を揺るがした『米騒動』の叫び
それから 100年
2018年 列島に穿たれた深い亀裂の前で
私・たちは何をしているのか

耳の後ろの耳を澄ませば
『米騒動』のエコーが
『じゃなかしゃばが欲しかよ』の声
聞こえる

顔を上げろ
身体を起こせ
血管の中に騒動を起こせ



生・労働・運動ネット 富山

代表 埴野謙二

〒930-0009 富山市神通町3-5-3

Tel : 076-441-7843

URL : <http://net-jammers.net>

E-mail : jammers.net.tym@gmail.com